

ねりま健育会病院

木戸 季彦 (看護部 / 看護師)

功 績 当施設の看護師として、業務を遂行しながら、学術活動にも積極的に取り組んでおり、この度、第33回慢性期医療学会学術集会へエントリー、発表し、優秀演題賞を受賞した功績。

推薦者氏名 上杉 百合江

推薦理由 慢性期医療を担う多様な人、組織からなる慢性期医療協会が主催する慢性期医療学会において、10演題のみが選ばれる優秀演題賞を受賞した功績は、当法人の理念に基づいた「その人らしさの尊重」に繋がる取り組みの実践を明確に社会へ発信するものであり、当法人・当施設の社会的地位や名誉を向上させ、「地域に頼りにされる病院・施設」のイメージ強化が進み、貢献できたと考えます。また、より質の高い医療の提供を目指して研究活動に取り組む姿勢は、他職員の模範となっています。これらは、優れた人材の育成へとつながり、当法人のブランディングを促進するものと考えます。したがって、理事長賞に推薦をさせていただきます。

内 容

木戸Nsは当施設West病棟の看護職員として、教育関連や管理におけるキャリアを生かし、日々の看護ケア提供のモデルとなり、スタッフ教育や看護チーム作りにリーダーシップを発揮しています。

今回、低栄養・誤嚥・ADL低下など多くの問題を引き起こし、患者のQOLに大きく関連するとされる摂食嚥下障害の改善に対する多職種協働での取り組みを「廃用症候群による嚥下障害に対し、看護師と言語聴覚士が協働することで嚥下機能の改善がみられた1症例」というテーマで、第33回慢性期医療学会へエントリー、採択され、発表しました。当院の攻めのリハビリの基盤となるチーム医療における多職種連携と継続的アプローチが、廃用症候群による嚥下障害の改善に有効であるとした内容は、多様な慢性期領域で医療ケアサービスの提供に携わる多くの参加者の注目を集めるとともに本学会で高く評価され、優秀演題賞を受賞しました。このことは、当法人・施設が提供する「患者が安心する医療」についての注目度の向上へと繋がっています。